



週間情報



No.0741

発行日 令和7年10月28日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 令和7年度全国消防長会財政委員会秋季常任委員会を開催

全国消防長会財政委員会

令和7年10月21日（火）、千葉県佐倉市（ウィシュトンホテル・ユーカリ）において、令和7年度全国消防長会財政委員会秋季常任委員会を開催しました（開催地事務局：佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部）。

会議の議題等は、次のとおりです。

【情報提供】

- 1 令和8年度国の予算概算要求に関する要望活動の概要について
- 2 令和8年度消防庁予算概算要求の概要について
- 3 令和9年度国の予算概算要求に関する要望を見据えた実態調査結果について

【議題】

- 1 令和8年度消防関係予算の所要額確保に関する要望（案）について
- 2 令和9年度国の予算概算要求に関する要望の方向性について
 - (1) 公共施設等適正管理推進事業債について
 - (2) 国庫補助制度について
 - (3) 緊急消防援助隊について

【その他】

次期開催地について



【常任委員会の様子】

行 事

◆ 「官民連携で守る琵琶湖の安全」消防活動支援協定を締結

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和7年10月2日（木）、ヤンマーコーポレーション株式会社と「水難事故発生時における消防活動支援に関する協定」を締結しました。

この協定は、琵琶湖で水難事故が発生した際に、守山市にあるヤンマーサンセットマリーナの敷地、設備、船舶（レスキュー艇）を消防活動時に提供いただくことを目的として締結したものです。

当消防局管内では、年間約20件の水難事故が発生しており、この協定の締結により、捜索および救助活動を迅速に展開することが可能となりました。

今後も、官民連携の下、琵琶湖における安全と安心を守ってまいります。



【調印式後の記念撮影】



【レスキュー艇】

◆ 「災害時におけるコンクリートポンプ車等の活用に関する協定」の報告会を実施

沖縄県中部消防長会（沖縄）

沖縄県中部消防長会（宜野湾市消防本部、うるま市消防本部、沖縄市消防本部、ニライ消防本部、中城北中城消防本部、浦添市消防本部）では、令和7年10月10日（金）、沖縄県コンクリート圧送安全協議会との「災害時におけるコンクリートポンプ車等の活用に関する協定」締結に係る報告会を実施しました。

この協定は、同年8月8日（金）、地震、風水害、大規模火災などの災害発生時に、コンクリートポンプ車などを活用した放水や吸水支援を行っていただくほか、定期的に防災訓練を実施し、適切かつ円滑な消防業務の運営に資することを目的として締結したものです。

この協定により、災害対応能力、地域防災能力、有事に対する即応性の向上が期待されます。



【協定式後の記念撮影】

訓練

◆ 多数傷病者救急事故初期対応訓練を実施

宮津与謝消防組合消防本部（京都）

宮津与謝消防組合消防本部では、令和7年10月2日（木）、丹後海陸交通株式会社にご協力いただき、医療機関および警察機関と合同で、多数傷病者救急事故初期対応訓練を実施しました。

この訓練は、多数の傷病者が発生した事案に備えるため、傷病者に対する効率的な救護、適切なトリアージ、重症者を最優先とした応急処置、傷病程度に応じた迅速かつ安全な医療機関へ搬送するなど、実践力の向上を図ることを目的として実施したものです。

今後も訓練を継続し、多数傷病者事案に対する災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】



【訓練後の記念撮影】

◆ 新潟県消防防災航空隊と空中消火連携訓練を実施

新潟市消防局（新潟）

新潟市消防局では、令和7年10月6日（月）、新潟県消防防災航空隊と合同で、空中消火連携訓練を実施しました。

当消防局秋葉消防署の管内には、江戸時代に里山として親しまれた新津丘陵が広がり、この一帯には、明治から昭和時代にかけて石油採掘産業が栄え、日本一の産油量を誇った油田層である新津油田があります。

当日は、「丘陵地帯において発生した林野火災が延焼拡大している。」との想定で、同航空隊による空中消火を行ったほか、消防車からバケットへの給水要領を確認することができました。

今後も、関係機関との連携強化を図るとともに、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 解体予定の共同住宅を活用した実践的な救助訓練を実施

熊谷市消防本部（埼玉）

熊谷市消防本部では、令和7年10月6日（月）、10日（金）の2日間、大東建託株式会社熊谷支店にご協力いただき、解体予定の共同住宅を活用した実践的な救助訓練を実施しました。

当日は、実際の建物において、高所からの救出訓練や施錠された玄関ドア、窓ガラス、シャッター破壊訓練などを実施し、より現場に即した活動を通じて、隊員の知識や技術の向上を図ることができ、大変有意義な訓練となりました。

今後も、このような訓練を多く取り入れることで、消防防災体制の充実・強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「令和7年度警防技術訓練会」を実施

新見市消防本部（岡山）

新見市消防本部では、令和7年10月6日（月）、7日（火）の2日間、「令和7年度警防技術訓練会」を実施しました。

この訓練は、警防活動技術の向上を図ることを目的として実施したもので、当日は、14組56人の隊員が参加し、実火災に備えるための充実した訓練となりました。

今後も、市民の安全・安心を守るため、現場活動能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 解体予定建物を活用した消防救助訓練を実施

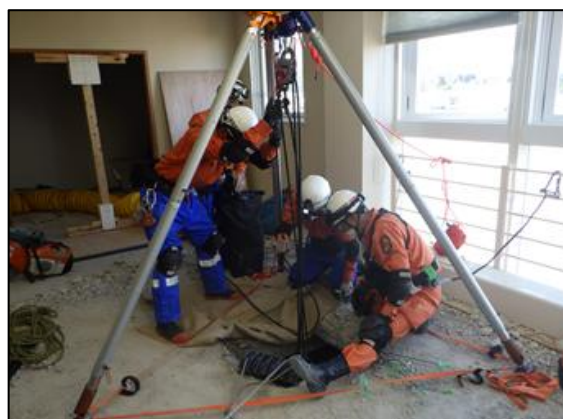
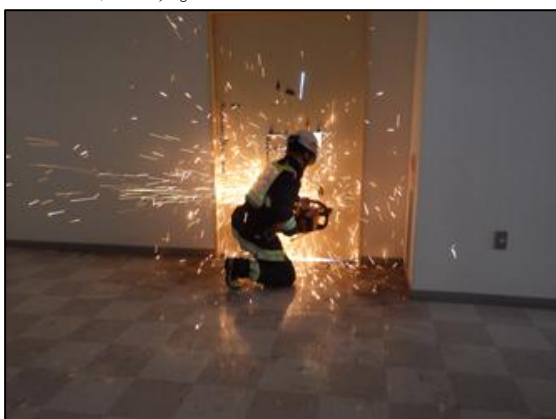
上越地域消防局（新潟）

上越地域消防局では、令和7年10月7日（火）、解体予定の公共施設を活用した消防救助訓練を実施しました。

当日は、消防隊によるさまざまな扉の破壊訓練や居室を活用した検索救助訓練を実施したほか、特別救助隊が「都市型搜索救助」技術の向上を図ることを目的として、側方・下方ブリーチング訓練や要救助者を建物外へ救出するロープレスキュー訓練を行いました。

実践的な環境下での訓練を通じて、効率の良い救助方法を発見することができたほか、安全管理の細かい部分まで察知する力を養うことができ、多くの学びを得ることができました。

今後も、上越地域の安全・安心の確保のため、実践的な訓練を重ね、消防力のさらなる強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部と水難救助合同訓練を実施

千葉市消防局（千葉）

千葉市消防局では、令和7年10月7日（火）、8日（水）の2日間、千葉県勝浦市の興津港付近海域において、夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部と水難救助合同訓練を実施しました。

この訓練は、太平洋に面し、黒潮の影響により潮通しが良く、視界が良好な外房の海域で訓練を行うことで、隊員の活動技術の向上を図るとともに、水難救助活動要領を再確認することを目的として実施したものです。

当日は、慣れない訓練環境の中で、夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部の隊員が主導となり、環状検索訓練やジャックスティ検索訓練を実施し、隊員間の積極的なコミュニケーションを必要とする活動であったことから、臨機応変な対応要領を習得することができました。

この訓練を通じて、隊員の活動技術の向上を図ることができたほか、合同訓練の重要性を改めて認識する機会となりました。

今後も、積極的に他消防本部との連携強化を図ることともに、部隊の活動能力向上に努めてまいります。



【訓練の様子】



【講評の様子】

◆ 防災航空隊と合同で連携訓練（消火散水・ホイス投入）を実施

若狭消防組合消防本部（福井）

若狭消防組合消防本部では、令和7年10月8日（水）、9日（木）の2日間、福井県防災航空隊と合同で連携訓練（消火散水・ホイス投入）を実施しました。

当消防本部若狭消防署名田庄分署では、管轄する大部分を山林が占めており、登山道が整備されていることから、近年、トレイルランニングやトレッキングで入山する方々が増加傾向にあります。

当日は、山岳救助事案を想定し、同航空隊による消防隊員ホイス投入訓練を初めて実施しました。

また、林野火災への対応の遅れによる貴重な森林資源の大規模な焼失、家屋などへの被害、市町村境や府県境を越えての延焼拡大に備えるため、ヘリコプターの消火バケットへの給水訓練と散水訓練も実施しました。

今後も、関係機関と連携した訓練を継続し、山岳救助技術と林野火災における防ぎょ技術・戦術の向上を図るとともに、林野火災に係る予防啓発を推進し、地域住民の安全・安心の確保に努めてまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 「火災調査指導員・主任制度に係る研修」を開始

前橋市消防局（群馬）

前橋市消防局では、令和7年9月29日（月）、新たに火災調査主任を希望する10人を対象とした、「火災調査指導員・主任制度に係る研修」を開始しました。

当消防局では、令和3年度から「火災調査指導員・主任制度」を導入し、現在11人の火災調査指導員と67人の火災調査主任が現場調査において、担当調査員を補佐・指導しています。

この研修は、近年、火災件数が減少傾向にある中で、複雑・多様化している出火原因に対応するため、火災調査に係る高度な知識の向上を図ることを目的として実施しているものです。

また、研修内容は、各分野に精通した職員の指導の下、車両火災や電気火災のメカニズム、鑑識見分要領などについて、実践的な学びを重視し、講義と演習を組み合わせながら研修を実施しています。

今後も、当研修を12月まで継続し、火災調査員の知識と技術の向上を図るとともに、局全体の火災調査体制の強化に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 「第10回土浦市消防本部救急技術指導会」を開催

土浦市消防本部（茨城）

土浦市消防本部では、令和7年10月3日（金）、指導救命士を中心とした各署救急隊の訓練・教育の一環として、「第10回土浦市消防本部救急技術指導会」を開催しました。

この指導会は、救急隊員の資質を一段と向上させるとともに、傷病者の病態に応じた質の高い病院前救護に必要な知識と技術を習得することを目的として実施したもので、今年で10回目の節目となりました。

当日は、観察基本手技と特定行為の正確性・迅速性を主眼とした救急訓練を競技形式で実施し、その訓練に対して4人の指導救命士が評価を行い、順位を決定しました。

なお、最も優秀であった救急隊は、同年12月12日（金）に開催される「土浦地区MC協議会第6回救急技術訓練」に、当消防本部の代表として参加します。

今後も、指導救命士を核とした救急隊員の教育・訓練などに取り組むとともに、誰からも信頼される救急隊員を育成してまいります。



【指導会の様子】

◆ 安全管理教養を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁世田谷消防署では、令和7年10月8日（水）、大災害を経験した講師による安全管理教養を実施しました。

この教養は、大災害の経験を通じて蓄積された教訓などを確実に伝承するとともに、消防業務の遂行に対する自覚と責任感を養うことを目的として実施しました。

当日は、京浜島不燃ごみ処理センター火災および歌舞伎町ビル火災に臨場された当庁OBの米山氏を講師としてお招きし、重度の火傷を負った京浜島の火災現場において、濃煙熱気に包まれ、視界が全くない危機的状況からどのような方法で脱出したかなどについてご講義いただき、改めて自らの職責を自覚するとともに、火災の危険性を自分ごとと捉える機会となりました。

今後も、「我々の目指す安全は、全ての人命を守り抜くことである」ことを忘れずに、安全管理を推進してまいります。



【教養の様子】

◆ 「警防活動基準に係る報告会」を実施

志太広域事務組合志太消防本部（静岡）

志太広域事務組合志太消防本部では、令和7年10月9日（木）、「警防活動基準に係る報告会」を実施しました。

この活動基準は、全国の消防本部で発生している活動中の重大事故を教訓として策定したもので、策定するに当たり、消防次長を委員長とする11人で構成された委員会を設置するとともに、各所属から選出された小隊長級の職員24人で構成する作業部会を中心に作業を進めてきました。

また、「安全を最優先する警防体制の確立」を組織目標に掲げ、「市民、職員の命を守ること」、「安全を管理すること」、「シンプルであること」、「互いの意思をリスペクトすること」、「絶対に諦めないこと」という行動五箇条を定めています。

今後も、当活動基準を基に、事故の未然防止に取り組むとともに、市民の命と暮らしを守る使命を、より一層果たしてまいります。



【報告会の様子】

◆ 「ハイブリット自動車・電気自動車の構造及び事故対応講習会」を実施

那覇市消防局（沖縄）

那覇市消防局では、令和7年10月9日（木）、「ハイブリット自動車・電気自動車の構造及び事故対応講習会」を実施しました。

この講習会は、ハイブリット自動車及び電気自動車の事故発生時において、迅速かつ安全な消防活動を行うことを目的として実施したものです。

当日は、沖縄トヨタ自動車株式会社から講師をお招きし、座学においてハイブリット自動車及び電気自動車の構造や事故対応要領についてご講義いただいた後、実車を用いて活動手順を確認し、知識を深めることができました。

今後も、本講習会で学んだことを教訓に、より安全で効率的な消防活動につなげてまいります。



【講習会の様子】

そ の 他

◆ 「指導救命士任命式」を実施

水戸市消防局（茨城）

水戸市消防局では、令和7年10月3日（金）、「指導救命士任命式」を実施しました。

当日は、今年度、新たに指導救命士に認定された4人を加えた計8人に対して、消防局長から指導救命士証と当消防局オリジナルの指導救命士エンブレムが授与されました。

今後も、任命した指導救命士を軸に、救急体制のさらなる充実強化を図ってまいります。



【エンブレム授与の様子】



【任命式後の記念撮影】

◆ 救命協力者に消防長から感謝状を贈呈

土岐市消防本部（岐阜）

土岐市消防本部では、令和7年10月12日（日）、救命協力者4人（2人欠席）に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年9月14日（日）、市内のスポーツクラブにおいて、心肺停止となった男性に対し、同施設内にいた救命協力者4人が連携して、119番通報、胸骨圧迫、AEDを活用した除細動を行い、救急隊に引き継いだものです。

男性は、救急隊到着時には、会話ができる状態まで回復しており、迅速な救命の連鎖により、搬送先の病院での治療後、後遺症もなく社会復帰しました。

また、贈呈式には、救命された男性も出席され、救命協力者に対し感謝の言葉を述べられました。



【救命された男性と消防協力者との記念写真】

◆ 県内初！女性職員が消防学校救助科を修了！

埼玉西部消防局（埼玉）

埼玉西部消防局では、令和7年10月6日（月）、狭山消防署特別救助隊員として活躍中の内野消防副士長が、埼玉県消防学校「第39期救助科」を女性職員として県内で初めて修了しました。

内野消防副士長は、令和7年9月からの約1か月間にわたり、厳しい訓練を乗り越え、救助活動に関する最新の専門知識と高度な技能・技術を修得しました。今後は、修得した技能・技術などを所属へ還元し、市民へのより質の高い消防サービスの提供が期待されます。

今後も、女性職員の職域拡大に取り組むとともに、すべての職員が活躍できる職場づくりの推進に努めてまいります。



【内野消防副士長】



【狭山消防署特別救助隊】

◆ 「高槻市島本町消防指令センター」の運用を開始

高槻市島本町消防指令事務協議会（大阪）

高槻市島本町消防指令事務協議会では、令和7年10月7日（火）、高槻市消防本部庁舎4階に設置した「高槻市島本町消防指令センター」の運用を開始しました。

これは、高槻市と島本町における消防業務の相互応援体制の迅速化と大規模災害時の対応強化などを図ることを目的として、運用を開始したものです。

この指令センターは、119番通報の際に、通報者が携帯電話などで撮影する現場映像を送信できる「映像通報機能」、消防隊がドローンなどで撮影する現場映像を共有できる「映像伝送機能」、災害に関する各種情報を一元的に管理し、消防本部の作戦指揮の高度化を図る「災害情報共有システム」など、最新の消防指令システムを導入しています。

また、両市町が運用する活動隊への指令を一元的に担うことで、携帯電話から受信した管轄外の緊急通報に対し、転送の必要がないスムーズな受信体制となるとともに、救急需要の集中時や市町境界付近で火災が発生した場合などに、応援要請することなく、両市町の消防本部から適切かつ迅速に出動させることが可能となりました。



【消防指令センター完成式の様子】



【運用を開始した消防指令センター】

◆ 「防災フェスタ2025」を開催

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部（青森）

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部では、令和7年10月8日（水）、八戸市体育館において、八戸地域防災協会および八戸地域幼年消防クラブ連絡協議会と共催で、「防災フェスタ2025」を開催しました。

当日は、防災関係者から一般住民まで1100人余りが参加し、当消防本部管内の幼年・女性消防クラブがアトラクションを披露するなど、防災意識の高揚を図りました。

フィナーレには、幼年消防クラブ全員で「火遊びしません 火の用心」と防火を誓いました。



【イベントの様子】

◆ ドローン隊「KITE（カイト）」が「WRS2025」で災害想定飛行を披露

豊中市消防局（大阪）

豊中市消防局では、令和7年10月12日（日）、災害対応ドローン隊「KITE（カイト）」が、「WRS2025（ワールド・ロボット・サミット2025）」に参加し、消防ドローンを活用した災害想定飛行を披露しました。

このイベントは、経済産業省が共催するロボット技術（ドローン含む）の社会実装と研究開発を加速させることを目的として、4年に1度開催している国際イベントです。

当日は、福島ロボットテストフィールドで行われたドローン競技「環境過酷F-REIチャレンジ」の決勝において、SNSによるライブ配信や、世界中からの参加者、来場者、関係団体が見守る中、当ドローン隊が「トンネル災害」を想定した飛行訓練を披露しました。

このイベントを通じて、日本の消防ドローンの活動を多くの方々に目にいただき、貴重な経験となりました。

今後も、災害現場における効果的な消防活動を研究し、災害対応力の向上に努めてまいります。



【想定飛行の様子】



【KITEの隊員たち】

消防庁通知等

◆ 鳥インフルエンザの発生事例について（お知らせ）

（事務連絡、令和7年10月17日）

今般、別添のとおり環境省より、北海道苫小牧市で回収された死亡野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出されたとの報告がありましたので、取り急ぎ情報提供します。（別添省略）

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/251017kyuki.pdf>) に掲載されています。

連絡先：消防庁救急企画室

担 当：金子補佐、森係長、高山事務官

T E L：03-5253-7529

F A X：03-5253-7532

E-mail：kyukyuanzen@soumu.go.jp

報道発表

◆ 令和7年度新潟県国民保護共同実動・図上訓練の実施

（令和7年10月15日、内閣官房、総務省消防庁）

令和7年度に国重点訓練として国と新潟県が共同で実施する国民保護実動・図上訓練の概要につきまして、以下のとおり決定しましたのでお知らせします。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/441f1e673a8b16955447f23fe99578d58cc40003.pdf>) に掲載されています。

【問い合わせ先】

内閣官房副長官補（事態対処・危機管理担当）付

内閣参事官 渡 眞 利 諭

参事官補佐 横山 哲也

T E L 03-5253-2111

（内線82653）

消防庁国民保護・防災部防災課国民保護運用室

国民保護運用室長 山下 義弘

課長補佐 関本 徹

係長 山本 準也

T E L 03-5253-7551

情報提供

◆ 令和7年度防災啓発中央研修会（後期）の開催について

一般財団法人消防防災科学センター

一般財団法人消防防災科学センターでは、令和7年度防災啓発中央研修会（後期）の受講者を募集しております。多数のご参加をお待ちしております。

- 【開催日時】 令和7年12月2日（火）13時00分から16時00分まで
【開催方式】 オンライン開催（Z o o mによる。Z o o mアプリの登録は不要）
【主 催】 一般財団法人消防防災科学センター（後援：総務省消防庁）
【対 象 者】 都道府県、市町村および消防本部等の職員並びに一般住民
【受講者数】 800名（定員）
【受 講 料】 無料
【申込方法】 受講を希望される方は、市町村防災研修ホームページ
(https://www.bousai-kensyu.com/chuo_oubo/) から事前にお申込みください。
お申込み直後には、登録時のメールアドレスに「申込完了」メールが届き、開催
当日までに「研修視聴用URL」メールが届きます。

【プログラム】

- ① 13時10分から14時00分
「避難生活改善とエコノミークラス症候群の予防策」
新潟大学医歯学総合研究科特任教授 榛沢 和彦
 - ② 14時10分から15時00分まで
「地方自治体の災害対応力の強化等について」
総務省消防庁国民保護・防災部防災課長 天利 和紀
 - ③ 15時10分から16時00分まで
「防災気象情報の改善と災害情報からみた防災対策」
東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任教授 田中 淳
- ※ 都合により、講師・題名等が変更となる場合があります。

一般財団法人	消防防災科学センター
中央研修会担当	小太刀俊雄
T E L	0422-24-7803
E-mail	kodachi@isad.or.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 吉田

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。